



発行 ● 狛江市政策室
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町 1-35-3
ル・ミリオン・イイダ3階 A号
☎ 3430-6617 FAX3430-6743

自然豊かな多摩川を教育河川に

特定非営利活動法人 多摩川塾

自然学習のノウハウ伝授

特定非営利活動法人多摩川塾(小林洋一理事長、東和泉4-3-7アウエルステイビル1A)は、多摩川を教育河川として活用した環境教育の推進と、ふるさとの川を愛する心豊かな社会を実現することを目的に平成20年に発足した。多摩川流域にある自治体の小学校の教師を中心とした教育関係者を対象に、川の自然体験や環境学習、環境保全活動の指導に関する事業を行い、多摩川の自然再生と自然環境教育指導者の育成を図る活動を行っている。

同会は、小学校で「総合的な学習」が始まる前年の13年に、狛江はたる村村長で狛江水辺の楽校の運営委員を務める竹本久志さんと、ガサガサ探検隊などで知られる俳優の中本賢さんが行っていた活動を母体に設立された。会の設立前、竹本



多摩川の図鑑を手にした中本さん(左)と竹本さん

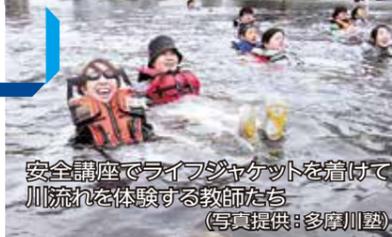
さんは狛江市、中本さんは当時住んでいた川崎市で、多摩川などで培った体験や知識を元に、教師を対象に自然観察会や環境学習を続けていた。そのなかで、自然学習のノウハウを身に付けた教師らに声をかけて特定非営利活動法人の多摩川塾を設立した。

現在の会員は48人で、そのうち川崎市と狛江市の現・元教師など8人が理事になっている。

観察会や自然再生事業

同会は、流域の小学生と教師を対象にした多摩川の中流、下流、河口と、三沢川などの支流をフィールドに自然観察会、動植物の生態調査、体験講座を定期的に催している。また、子どもたちが川に親しむのに必要な知識や川流れ体験などの安全講座を年間10数回開催。小学校や幼稚園、福祉施設の依頼で、「ガサガサ体験」などの出前授業や、児童を引率して川に出かける指導を年20数回行っている。

自然再生事業として狛江市でオイカワ・メダ



安全講座でライフジャケットを着けて川流れを体験する教師たち (写真提供:多摩川塾)

カ・ウグイなどの魚やカブトムシ・クワガタムシなど甲虫類の産卵床作りや産卵観察会を実施したり、河川敷のゴミや倒木などの回収、アレチウリなど外来植物の駆除などの緑地保全や清掃も行っており、それぞれの事業に年間のべ数千人が参加する。

教師向けに野鳥、植物、



▷5<

魚、昆虫、干潟の生きもの5種の図鑑を制作し配布している。

こうした活動により、これまでに流域の学校90校余りの1,500人以上の教師を、「多摩川の先生」として育てたが、今後は、一般市民を対象にした活動にも力を入れ、身近な川と上手に共存できる知識や方法を伝えていきたいと話している。

自然体験活動普及めざし多彩な事業

特定非営利活動法人 国際自然大学校

国内外で幅広い活動

特定非営利活動法人国際自然大学校(佐藤初雄理事長、岩戸北4-17-11 ☎ 3489-6582)は、子どもから大人までを対象に、国内外で自然体験活動、野外教育、環境教育、冒険教育などを実施するとともに、野外活動の専門的な指導者などの育成、情報提供、調査研究、プログラムの開発、政策提言などを行い、野外活

動の拠点となる施設の管理運営を行うなど、様々な事業を通じて自然体験活動の普及と振興を目的としている。

日本体育大学在学中にキャンプ実習やスキー実習を通して技術の習得だけでなくチームワークとコミュニケーションの重要性を知った佐藤理事長が、大学2年の時に同級生の櫻井義維英さんと野外教育活動研究会を結成。佐藤さんは卒業後にイギリスやアメリカの冒険学校で

子どもの自由な遊び育むプレーパーク

NPO法人 子どもの遊びと育ちをささえる会・狛江

西河原公園に開設

NPO法人子どもの遊びと育ちをささえる会・狛江(岡本千栄子代表、元和泉2-38-1 ☎ 050-3707-2435(開園中のみ))は、西河原公園内にあるプレーパークの運営を通して、子どもの主体性を重視した外遊びを推進し、子どもの遊びと育ちを支える事業を通して乳幼児や青少年とその保護者、一般市民が交流する場を作り、子どもが生き生きと育つまちづくりを目指している。

平成28年に開設された狛江プレーパークは面積1,621㎡で、高さ1mほどの土の山と手作りの遊具がある空き地と木造平屋建て

の管理棟と倉庫やトイレがある。開園日には子どもたちが自由に遊べるようになっている。備え付けの大工道具などを使って遊具を作ることできる。「プレーワーカー」と呼ぶスタッフが配置され、子どもの遊びを支援したり、ケガなどのトラブルに対処する。乳児とその母親のため管理棟には授乳スペースやおむつ替えベビーベッドも備えられている。開園日は月・火・水曜日と土曜または日曜日(隔週)の週4日で、時間は午前10時から午後5時。利用は無料。

母親たちの願いが実現

同会は、代表の岡本さんら青空保育に関心を持

つ母親が中心となって22年に「狛江にプレーパークを作る会」を結成、常設プレーパークの開設を市に働きかけた結果、「狛江市市民協働事業提案制度」に応募して採用され、実現に向け、市内で冒険遊び場のイベントを催したり、調査・研究を行った。27年にはプレーパークの開設に先がけてNPO法人を設立した。

現在会員は34人と団体賛助会員3団体で、簡単な



手作り遊具で遊ぶ幼児たち

のほかに、山梨県北杜市に日野春校、沖縄県中頭郡中城村に沖縄校がある。また、受託事業として川崎市立黒川青少年野外活動センターをはじめ、神奈川県立愛川ふれあいの村、埼玉県立名栗げんきプラザの指定管理者となっているほか、川崎市など全国10カ所の青少年向け野外施設や、小・中学生の林間学校の運営なども行っている。

また、海外にも活動を展開、キャンプなどを行うほか、インドネシアのボルネオなどでSDGsの体験学習なども手がけている。

狛江市内では、「ノッツ森のようちえん」として18年から多摩川などで幼児を対象にした自然体験プログラムを行っており、令和2年からは小学3年生以上を対象にした「あおぞら学童クラブ」を開設した。

同法人の一般会員は全国で約5,000人を数え、事務局と本校のある狛江市



水遊びを楽しむ小学生たち

作業を手伝う「猫の手会員」が37人いる。会では、市の委託でプレーパークを運営するほか、会報やパンフレットの発行、ホームページの運営、プレーワーカーの研修、子育ての講演会などを催している。また、出張プレーパークも開催した。

利用者は平日午前中は乳幼児とその親が多いが、午後は小学生も増える。また、グループや市内外の保育園などの団体利用もあり、小学生の頃に利用した中学生や高校生も訪れ、異年齢の子が交流する貴重な居場所になっている。



森のようちえん (写真提供:国際自然大学校)

インストラクターの技術を習得、昭和58年に櫻井さんと国際自然大学校を設立、平成12年に特定非営利活動法人となった。

アウトフィッターを育成

同法人は、様々な体験型

のプログラムを通して自然や人との関わりの中で人生を前向きに生きるアウトフィッターの育成を目指しており、主催事業として子どもを対象にした自然の中でチャレンジ精神や社会性を育てる「子ども体験教室」、山梨県北杜市の自然の中で様々な自然遊びを行う「ひのはる冒険隊」、長期休みに様々な体験ができるシーズンキャンプ、大人を対象に、100キロチャレンジハイク、ヒバークなどを体験するアウトフィッターコース、田



あおぞら学童クラブ (写真提供:国際自然大学校)